

ごあいさつ

本日は"A-Winds7 2001年冬の演奏会"にお越しいただき誠にありがとうございます。
「こころ豊かな文化の香り高き町：大和郡山市」に今年6月にオープンしたばかりの
"やまと郡山城ホール"で今回で2回目の演奏会を開催し、音楽を通じて皆様方とこ
うしてお逢いする機会を持つ事ができましたことにA-Winds一同、心より感謝し
ております。

県内にはアマチュア吹奏楽団が数多くあり、個々の活動は中学校や高校をも凌ぐ
ほど熱心で盛んであります。その文化に恵まれた環境に生まれ、我々A-Winds奈良
アマチュアウィンドオーケストラは、1999年10月に新しい吹奏楽団として誕生しま
した。発足と同時に活動を始めて以来、1999年12月の"デビュー演奏会"を始めに、
2年足らずの間に6回の演奏会を開催し、おかげ様をもちまして団員も50名に成長
することができました。これも、皆様方のご指導、ご支援あってのことと厚く御礼
申し上げます。

さて、我々の正式名称は
"A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラ"です。

この"アマチュア"という表現がとても気に入っています。
がむしゃらに、ひたむきに互いに仲間を信頼しあい、何事にも臆せず、ただひたす
らチャレンジし続けることが、とても自分にあっているし、それにこれはアマチュア
だから出来ることだと思っからです。また、既にご存知の方もおられるかと思いま
すがA-Windsは最少人数の吹奏楽=ウィンドアンサンブルを指向しております。
演奏面は勿論のこと、運営面も含む活動全般において、団員一人ひとりが常に『主
人公』であり、自分の代役は自分しかできないという意識のもと"責任"を感じ、"や
りがい"に酔いしれて未来への熱き想いを抱き、それを叶えるべくいきいきとした
吹奏楽団を目指し日々活動に取り組んでおります。

創団3年目を迎え、団員一同、更に心をついにし、リラックスして且つ真剣に、今
出来る精一杯の音楽活動に取り組んでいく想いに胸を膨らませながら、団員を代表
しまして、今の心境を一句詠ませていただきます。

二年ゆき うすく彩り 顔と音

今後とも、暖かいご指導、ご支援の程、宜しくお願いいたします。

A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラ 団長 魚谷昌克

ごあいさつ

本日は何かとお忙しい中ご来場賜り有難く厚く御礼を申し上げます。
今回の"A-Winds7 2001年冬の演奏会"では吹奏楽の楽しさ、面白さをより多くの
皆さんに知って頂きたいという願いを込め、トランペット奏者で今回は客演指揮を
お願いした吉崎直之先生に解説もお願いして、より解り易く吹奏楽をお楽しみ頂け
るよう、選曲にも少し工夫を凝らしております。
私たちが吹奏楽を始めると、家族や友人は決まってこう言いました「ブラバンに
入ったん?」10人中15人が「ブラバン」と親愛の情を込めてそう呼んでくれました。
「プラスバンド」の省略形が「ブラバン」なのですが、この「プラスバンド」は、
果して私たちの「吹奏楽」と同じ物なのでしょうか?
今日はそんなお話も交え、吹奏楽とはどんなものかを知って頂き、吹奏楽ファン
になって頂ければと思っております。最後までどうぞごゆっくりお楽しみ下さい。
なお、本公演開催に当り関係各方面よりご支援賜りました事を演奏会実行委員を
代表して厚く御礼申し上げます。

A-Winds7 2001年冬の演奏会 実行委員長 河村 穰香

Profile

吉崎直之●奈良出身。12才でトランペットを始め、奈良市立二名中学校、京都市立堀川高等学校
音楽科分校（現京都市立音楽高等学校）トランペット専攻を経て京都市立芸術大学音楽学部卒業。
トランペットを八木茂夫、北村源三、藏野雅彦、有馬純昭の各氏に師事。在学中よりフリーラン
ス奏者として活動し、京都市交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、大阪シンフォニー、
大阪センチュリー交響楽団、東京佼成ウインドオーケストラ、宝塚歌劇管弦楽団、広島交響楽団
等にエキストラとして出演。平成4年より大阪プラス・コンソート（現、ザ・プラス・コンソ
ート）のメンバーとなり、平成5年にコンサート・マスターに就任。400以上の公演を勤め平成11年
に退団。現在、プラス・フェイバリッツ、藏野雅彦管五重奏団の活動の他、大阪コルネットサ
クバット・アンサンブルのコルネット奏者として古楽の紹介、また、ポリヒムニア・アンサンブ
ルのトランペット奏者として、現代音楽の紹介にも努める。平成10年滋賀県立大学オーケストラ
定期演奏会。平成11年関西吹奏楽コンクール。平成12年京都職域・一般吹奏楽連盟合同バンド指
揮等、スクール・バンドや一般のバンド、オーケストラの指導・指揮等でも精力的に活動してい
る。奈良県立高円高等学校音楽科トランペット講師。田代ミュージックサロントランペット講師。
ヤマハインストラクター。ブリーズ・プラス・バンド ソロ・コルネット奏者。

A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ

ピッコロ/Piccolo
佐藤 由加里/Sato Yukari

フルート/Flute
佐藤 司/Sato Tsukasa
魚谷 陽子/Uotani Yoko
延澤 優子/Nobezawa Yuko

オーボエ/Oboe
上嶋 悠子/Uejima Yuko
中村 紘子/Nakamura Hiroko

クラリネット/Clarinet
in E♭篠木 章江/Shinoki Akie
長尾 恭子/Nagao Kyoko
in B♭

畑澤 淳子/Hatazawa Atsuko
初岡 ゆき/Hatsuoka Yuki
石田 契子/Ishida Keiko
大江 奈々/Ohe Nana
福田 彩/Fukuda Aya
佐々木 博幸/Sasaki Hiroyuki
辻 美保/Tsuji Miho
植田 洋美/Ueda Hiromi
竹村 明恵/Takemura Akie
Alto(in E♭)
大西 晴巳/Ohnishi Harumi
Bass(in B♭)
荒木 英夫/Araki Hideo *

バスーン/Bassoon
萱原 美華子/Kayahara Mikako

サクソフォン/Saxophone
Alto(in E♭)
小川 陽子/Ogawa Yoko
伊藤 耕平/Itoh Kohei ☆
中井 美智子/Nakai Michiko *
Tenor(in B♭)
初岡 和樹/Hatsuoka Kazuki
Baritone(in E♭)
奥田 ひろみ/Okuda Hiromi

* エキストラ ☆ 休団

ホルン/Horn
小川 貴子/Ogawa Takako
日置 澄人/Hioki Sumihito
佐伯 直人/Saeki Naoto
久野 耕三/Kuno Kozo
次田 哲平/Tsugita Teppei

トランペット/Trumpet
魚谷 昌克/Uotani Masakatsu
大西 伸幸/Ohnishi Nobuyuki
國元 昌広/Kunimoto Masahiro
表 恭子/Omote Kyoko
吉川 茂宏/Yoshikawa Shigehiro

トロンボーン/Trombone
田口 秀雄/Taguchi Hideo
小島 正浩/Kojima Masahiro☆
竹本 富如/Takemoto Tomiyuki *
萱原 淳嘉/Kayahara Atsuyoshi
上田 純子/Ueda Junko

ユーフォニアム/Euphonium
大西 善郎/Ohnishi Yoshio
中村 雅美/Nakamura Masami

チューバ/Tuba
吉村 大介/Yoshimura Daisuke
平野 幸子/Hirano Sachiko

パーカッション/Percussion
河津 雅之/Kawatsu Masayuki
平井 晶/Hirai Aki
下村 智子/Shimomura Tomoko
板垣 麻子/Itagaki Asako
廣田 順子/Hirota Junko
永福 晴美/Nagafuku Harumi *

ピアノ/Pianoforte
松本 清香/Matsumoto Kiyoka *

ステージマネジャー/Stage Manager
河村 穰香/Kawamura Yutaka
田中 眞二/Tanaka Shinji

●団員募集のお知らせ

<条件>・A-Windsの活動趣旨(ウィンドアンサンブル&オリジナル重視)に賛同頂ける方
・自分で楽器が準備出来る方
・全ての活動に積極的に参加出来る方

<パート>バスクラリネット、バスーン、コントラバス、ピアノ、パーカッション各一名
オーディションはありません。早い者勝ちです。

<E-Mail>a-winds@classic.interq.or.jp

●ホームページ●<http://www.interq.or.jp/classic/a-winds/home.htm>

A-Winds 奈良アマチュアウィンドオーケストラ●1999年10月古都奈良に誕生した新しいアマチュア
吹奏楽団です。現在は、やまと郡山城ホールを本拠地に活動しています。「A-Winds(エイ・ウィン
ズ)」の「A」は「アマチュア(AMATEUR)」の「A」であり、アマチュアならではの音楽づくりを追求す
る事を標榜しています。演奏者一人ひとりの音楽づくりを演奏に反映できる、管打楽器アンサンブ
ルの延長上としての最少人数の吹奏楽=ウィンドアンサンブルを志向し、また吹奏楽の特性を最大
限に発揮できる吹奏楽オリジナル曲を中心に取り上げていくことを活動方針としています。

7
A-Winds SINCE 1999
NARA AMATEUR WIND ORCHESTRA

2001年 冬の演奏会

2001.12.16(日)14:00

やまと郡山城ホール大ホール



主催●A-Winds奈良アマチュアウィンドオーケストラ
後援●大和郡山市 大和郡山市教育委員会 奈良県吹奏楽連盟

●●プログラム

Program

星条旗よ永遠なれ The Stars and Stripes Forever

エルキャピタン El Capitan

ジョン・フィリップ・スーザ Jhon Philip Sousa

アルメニアンダンス パート1 Armenian Dances Part 1

あんずの木～やまうずらの歌～ホイ、私のナザン～アラギラス～行け、行け
TZIRAN TZAR (The Apricot Tree) ～ GAKAVI YERK (Partidge's Song)
～ HOY, NAZANEEM ～ ALAGYAZ ～ GNA,GNA

アルフレッド・リード Alfred Reed

日本民謡組曲「わらべ唄」 Japanese Folk Song Suite Warabe-uta

- 1) あんたがたどこさ 1) Antagata Doko Sa (Where Are You From?)
- 2) 子守歌 2) Komori-uta (Lullaby)
- 3) 山寺の和尚さん 3) Yamadera no Osho-san
(An Old Priest in a Mountain Temple)

兼田 敏 Kaneda Bin

新大陸の踊り Dance of the New World

ダナ・ウィルソン Dana Wilson

タイタニック・サガ The Titanic Saga

ピート・スウェルツ Piet Swerts

セント・アンソニー・ヴァリエーション St. Anthony Variations

ウィリアム・ヒル William H. Hill

●●プログラム・ノート

Program Note

文■河津雅之

- 星条旗よ永遠なれ (1896) ～エル・キャピタン (1894)
ジョン・フィリップ・スーザ (1854-1932)

"マーチの王様"と称されているジョン・フィリップ・スーザは、1880～92年までアメリカ海兵隊軍楽隊の指揮者をつとめ、退役後はスーザ・バンドを創設して世界各地を公演し、大きな人気を博しました。並行して作曲活動も精力的にこなし、実に100曲以上のマーチを作曲しています。中でも『星条旗よ永遠なれ』はアメリカ合衆国を代表するあまりにも名高いマーチで、今日では国歌に次ぐ存在になっています。この曲は、ヨーロッパから帰国する船の上で、頭の中から離れなかったメロディをマーチにしたといわれています。またオペラ、オペレッタの楽曲も多数作曲しており、『エル・キャピタン』のように劇中で使用される音楽の旋律をとって作曲されたマーチもあります。

- アルメニアンダンス・パート I (1972)
アルフレッド・リード (1921-)

中央アジア西部に位置するアルメニア地方は、古くから東西南北の重要な交易ルートの合流地点にあり、複数の民族と宗教が混ざり合った独特の文化風土を持っています。この曲の素材となっているのはこの地方の民謡や舞曲で、"あんずの木"、"やまうずらの歌"、"ナザン"という少女に対する若者の愛の歌"ホイ、私のナザン"、アラギラスという山を歌った"アラギラス"、そしてロシアのコサック・ダンスのように軽快な"行け、行け"の5曲で構成されています。また、出版の都合により分けられた『パートII』とともに全曲演奏されることもあります。

- 日本民謡組曲「わらべ唄」 (1962)
兼田 敏 (1935-)

わらべ唄には子守り唄、遊び唄、はやし唄などありますが、このような幼いときから歌うという意識もないほどごく自然に身につけてきたわらべ唄こそが私たちの音楽との関わり方の原点ではないでしょうか。この曲は、このように昔から日本の子どもたちによって歌い継がれてきた、3つの有名なわらべ唄からなります。

- 新大陸の踊り (1992)
ダナ・ウィルソン (1946-)

1492年、イタリアの船乗りであったコロンブスは、西回りの航海をすれば必ずインドや日本など、マルコポーロの「東方見聞録」にある絹、金、香辛料などの宝庫に到達することができるかと確信し、8月3日早朝に3隻の船を率いて西南への大航海の旅へと出発しました。この曲は、コロンブスが歴史的航海に出た日のちょうど500年後にダナ・ウィルソンが数ヶ月間で作曲した曲で、彼の航海から生じた目覚め、発展の精神を表現しています。結局コロンブスは、1504年までの間に4回も大西洋の大海原を渡りますが、当時まだ未知の大陸であった南北アメリカという壁に阻まれて目指す宝庫を発見することができず、1506年忘れられた人間としてわびしくこの世を去ってしまいます。しかしこの4回の航海は、実際には中央アメリカから南アメリカに到達しており、その後の"大航海時代"を起こす端緒となり、アメリカ大陸の大発見をした偉業は今日でも大いに讃えられていることは衆知のとおりです。

- タイタニック・サガ (1999)
ピート・スウェルツ (1960-)

1912年4月10日、ある大型豪華客船がイギリスのサウサンプトンの港から初めての航海に出ました。その客船の名を「タイタニック号」といい、当時最新鋭の技術を駆使して造船されましたが、出航からわずか5日目の真夜中に冰山に衝突して沈没してしまいます。この曲は、この悲劇の豪華客船タイタニックの出港から沈没までを描写した壮大な交響詩です。曲は港でタイタニック号に乗り込む準備をしている群衆の描写に始まり、やがて出航。回転を速めるエンジン音、遊ぶ子供たち、スミス艦長、さまざまな乗客、エンジンの蒸気、これらはすべて音楽的に表現されます。そして他の船からのモールス信号が冰山の接近を警告。しかしそれは無視され、エンジンはタイタニック号が冰山と衝突するまでフルスピードで回転し続けます。衝突の後エンジンが故障、SOSのモールス信号、パニック状態の乗客...そして沈没。劇的で恐ろしい結末で曲を閉じます。

- セント・アンソニー・ヴァリエーション (1985改訂版)
ウィリアム・ヒル (1930-)

17世紀のオーストリアの聖歌に「セント・アンソニー・コラル」 という歌があります。18世紀にハイドン(1732-1809)はこのテーマを使って管楽8重奏の室内楽曲を作曲しました。この曲をもとに19世紀に今度はブラームス(1833-1897)が管弦楽曲を作曲しました。そして20世紀、このテーマはカリフォルニア州立大学ウィンド・アンサンブルの指揮者であるウィリアム・ヒルによって華麗な吹奏楽曲となりました。このコラルは、実に4世紀にわたって進化と発展を遂げてきたこととなります。



2002年 春の演奏会
2002.3.24(日)14:00
やまと郡山城ホール大ホール●入場無料

第1部 指揮：魚谷 昌克
・コンサート・ミニアチュア (R.ミッチェル)
・動物園の一日 (J.カーノウ)
・ロマネスク (J.スウェアリンゲン)
・パンチネロ (A.リード)

第2部 指揮：佐藤 司
・第2組曲 (G.ホルスト)
・プラトンの洞窟からの脱出 (S.メリロ)